

2011年11月22～23日 公の精神でつながるコミュニティー「一志会」の特別例会「仙台地区被災地視察」が開催されました。

経営者が「公の精神」を持って積極的に社会とかかわっていくことを目指すコミュニティー「一志会」では、東日本旅客鉄道の富田副社長の提案をもとに、大震災で被災した仙台地区を視察する特別例会を11月22日～23日に開催しました。

一柳社長も参加して、13名が合流しました。22日は松島に宿泊し、大震災での対応などの意見交換の後、夜遅くまで親睦を図り、絆を深めました。

翌23日は早朝から貸切バスで仙石線の東名駅から始まり、野蒜小学校、野蒜駅、石巻港駅、女川町立病院、女川駅、名取市閑上地区を、東日本旅客鉄道仙台支社の案内・説明で視察しました。また、アスクルの織茂取締役の案内で、大被害を受けた後、高度の安全対策を講じて完全復旧させた同社の仙台配送センター(仙台市宮城野区)も見学しました。



東名駅



野蒜駅



復旧したばかりのコンビニ前



女川町立病院前から



女川駅跡



仙台市宮城野区



アスクル 仙台配送センター



閑上地区 1



閑上地区 2

視察した各所は、地震と大津波で大被害を受けテレビなどで繰り返し映像が報じられた場所ですが、発生後8ヵ月を経た現在もまだ瓦礫などの処理に追われている状況であり、現場に立ってみると、被害の深刻さと復興には程遠い有様を改めて痛感させられました。移動する車窓からも、破壊された建築物が続き、仮設住宅群がいくつも目に飛び込んできて、心が痛みました。瓦礫の山に、「被災者にとってはかけがえのない品々であり「瓦礫」という言葉で片付けることにははばかられる思いです」との説明にも、身が引き締められました。

今回の視察は、被災地のごく一部に過ぎませんが、私たちは今後どのような支援をしていくべきか、更には大災害への備えをどう取り組んでいくべきか、地域の永続的な発展とは何か?など、いろいろ考えさせられた有意義なものとなりました。